

主 題

「 危 険 回 避 の 意 識 を 」

～ 高校生 交通安全訴え、交流 ～

「危険回避の意識を」

高校生 交通安全訴え、交流

高校生の交通安全意識の向上や交通事故防止を目的に「第22回高校生の交通問題を自ら考える実践交流会」（主催・県教育委員会、県高校生徒指導研究会）が11月21日、那覇市奥武山町の県立武道館アリーナ棟で開催された。県内各校から参加した高校生約500人は、生徒の実践発表や意見発表、専門家の講話を通して交通問題への理解を深めた。

意見発表をした沖縄工業高校3年の下地啓太君は、自転車での交通事故に巻き込まれた経験から「自転車は便利で手軽な交通手段だが、（事故の）被害者にも加害者にもなる可能性がある。事故はいつ起こるか分からないため、普段から危険を回避する意識をしよう」と呼び掛けた。

読谷高校1年の桃原夏海さんと名幸美来さんは、校内での交通安全活動の実践報告をした。同校オリジナルの反射材ステッカーを自転車に貼ることで交通事故を防止するほか、自転車が

盗まれても高校まで戻ってくる場合もあるなど成果を話した。

生徒を代表して「交通安全宣言」を行った沖縄水産高校2年の比嘉守輝君は、「（交通事故を）他人事とは考えずに自分にも起こり得ることとして捉えます」など5項目の宣言をした。

教育



下地啓太君

高校3年の下地啓太君は、自転車での交通事故に巻き

shakai@ryukyushimpo.co.jp



読谷高校での交通安全の取り組みを紹介する同校1年の桃原夏海さん（右）と名幸美来さん（左）。11月21日、那覇市奥武山町の県立武道館アリーナ棟